

群 教 セ	G14 - 01
	平 15.213 集

深く聞いた話の中に価値を見だし、 自分の生活に生かそうとする児童の育成

- 理由を明らかにすることにより

思いを深める「お宝話発掘隊」を通して -

特別研修員 池田 卓巳

《研究の概要》

本研究は、地域の方に話を聞いてその中に価値を見だし、学んだことを自分の生活に生かそうとする児童の育成をめざす実践的研究である。児童は話を聞く相手や深く聞く話を思いをもって決め、質問してわかったことの中から自分が大切にしたい内容を選び、次の質問を考えるとという思考を繰り返す。その過程の中で考えを深めて得た価値を、自分にとって大切な物ととらえ、自分の生活に積極的に生かそうとする児童の育成をめざす。

【キーワード：教育課程 総合的な学習 - 小 地域社会 意欲 自己の生き方】

主題設定の理由

本校は高崎市の旧市内にあり、学校周辺は古くからの町並みの中にある。そういった中にある家に住む児童と、大きなマンションに住む児童が半々といった家庭状況である。学校周辺にはお年寄りも多く住み、以前他の学年の単元で、お年寄りに話を聞いてみる機会があったが、とても元気で、生活の中に生きがいをもっている方が多いことがわかった。

5年生は男子10名女子16名で、学ぶ意欲や学習習慣のついた児童たちである。総合的な学習の時間での調べる活動や、模造紙などにまとめて発表することも好きである。ただ、調べたいという意欲はあるものの、調べたことを何かに役立てるような目的意識が弱く、意欲が長続きせず、学習後の感想も「わかってうれしかった」といったものにとどまる児童が多い。

一学期には、福祉をテーマとした「お年寄りの生活に役立つパンフレットをつくろう」という単元で、たくさんのお年寄りと関わって情報を集めることができた。その情報が地域の方の役に立つという実感を得られたり、自分の生活に結びつけて考えられたりする児童は少なかったが、実施後の感想で、人に接する楽しさをあげる児童が多かった。

本単元「お宝話発掘隊」では、総合的な学習の時間のねらいである「自己の生き方」について考える能力を高めるために、児童が自分の聞きたい話の項目を設定し、地域の方から話を聞く交流活動を行う。児童は、話を聞く相手や内容を理由を明らかにして決め、話の中に価値を見出すために、共感的に理解しながら聞いたり、意図的に質問したりする。そうすることにより、話し手の生き方のよさに気付くことができるとともに、学習によって得た価値を、自分の生活に生かそうとする考えにもつながると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間において、話を聞く相手や深く追究する課題を理由や思いをもって決める活動、話を共感的に聞いたり、意図的に質問したりして、価値を見出す活動を行うことにより、話し手の生き方のよさに気付くとともに、そのよさを自分の生活に生かそうとする考えにつながる学習になることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 課題設定の過程において、話を聞く項目を考える時に思考を広げるためにブレインストーミングを行ったり、理由を明らかにして、聞きたい話を選んだりすることにより、思いが深まり、自分が本当に聞きたいと思う話を課題として設定することができるだろう。
- 2 深く追究する過程において、聞き取りによってわかったことの中から、価値のあることを選んで次の質問を考えたり、聞いてきた内容を分類したりすることにより、自分の大切にしたい価値を明らかにすることができるだろう。
- 3 まとめる・広げる過程において、学んだことを伝えるために発表内容をまとめていく活動や、それまでの自分と学んだことを生活に生かしている自分とを具体的に想像させることにより、学習によって得た価値が明確になり、生活に生かそうと考えることにつながるだろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 本單元における「深く聞いた話の中に価値を見いだす」とは

本單元では地域の方から話を聞き、その中に価値を見いだすことが活動の中心となる。初めに児童にどのような話を聞きたいか考えさせ、たくさん話を集める第1次の聞き取りに向けた項目づくりをさせる。例えば「これまでの人生で最高の瞬間」「いちばん苦労したこと」「いちばん大切にしていること」などの項目が考えられる。

また本單元において、地域の方から話を聞くことによって児童に見いださせたい価値の方向性には、次のようなものがあると考えた。

昔の暮らしの中にある考え方のよさ	何かを達成するための努力のすばらしさ
自然や人に対する愛情のすばらしさ	困難・苦難を乗り越える生き方のすばらしさ
戦争体験から感じられる平和の尊さ	

(2) 思いを深める手だての工夫

[話を聞きたい理由を明らかにさせる]とは

この単元を進める上で、第1次で聞いた話の中から、第2次の聞き取りに向けてどのような内容を課題として選ぶかということが大変重要になる。そのため、一般的な児童の思考の段階を考慮して、課題を選ぶときに次のような観点で理由を考えさせたい。

ア 「このお話を聞くと、こんなところがおもしろい！」

イ 「このお話を聞くと、こんなことがためになる！」

ウ 「このお話を聞くと、こんな自分になれそう！」

課題設定の時点では、ア～ウについて1つ以上記入できればよいこととする。その理由は、どんな内容が聞けるかわからないが、興味があるので聞きに行きたいということも考えられるからである。未記入の欄には、課題を追究しながら、それぞれの価値に気付いた時点で書きこんでいかせる。またア～ウの観点を提示しておくことにより、話を聞き進めていく上での方向性を意識付けることにもつながると考えた。

[意図的に質問する]とは

話の中に価値を見いだしていくためには、相手の話を共感的に理解することと同時に、質問づくりも重要である。1回ごとに聞いてきた内容を振り返り、自分が価値があると思ったこと

を選んで、次の質問を考えるということが基本的な流れとなる。支援としては、面談により、引き出したい価値の方向性にあった質問づくりのために教師がヒントを与えたり、友達からのアドバイスを受けることなどが考えられる。

質問してわかったことは、回ごとに色分けした付箋紙に書かせておく。そして最後の質問の機会の前に、それまでに聞いてきた内容を分類させる。それにより、最後の質問を充実させ、発表の方向性を明確にさせることができると考える。分類する際には縦軸を「自分のこれからに生かせそうだ」横軸を「これはみんながビックリするぞ」とした「お宝度マップ」(資料2参照)というワークシートを使い、自分の聞いてきたことが、どこに当てはまるかを考えさせる。この作業を通して、自分が一番大切にしたい価値を自分に問いかけることにより、明らかにさせることができると考えた。

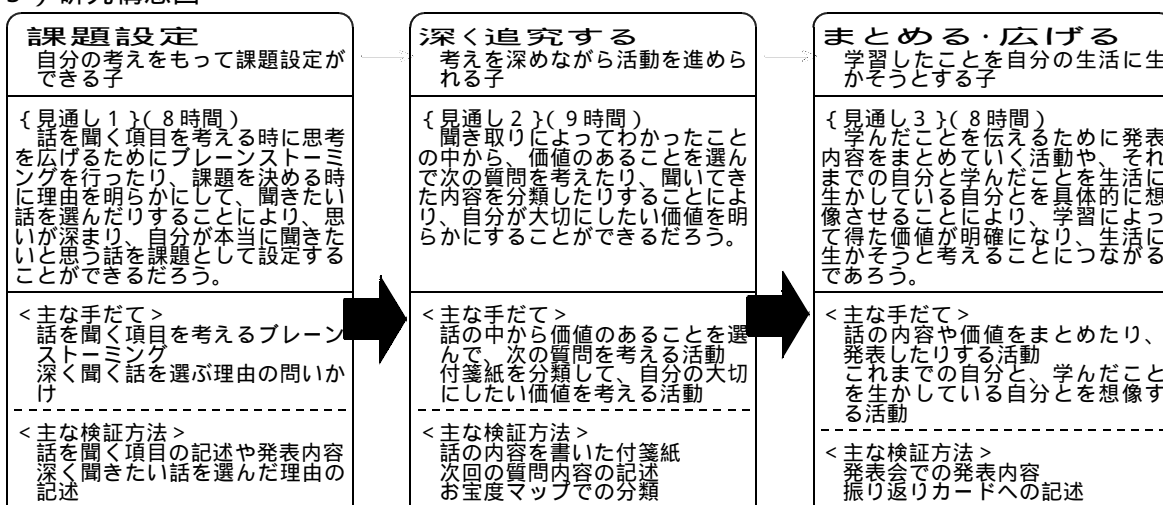
(3) 「自分の生活に生かす」とは

本研究において、「学習によって得た価値を自分の生活に生かそうとする」ということや各段階における児童の姿を、表1のように考えた。(本研究における「自分の生活に生かそうとしている」姿は段階4とする)

表1 話の中に見いだした価値を、自分の生活に生かそうとする段階

想定した話	困難な目にあいながらも逆境に耐え、乗り越えられた話	大きな目標や夢に向かって努力し、それを成し遂げた話	自然や動物、人に対して愛情を注いでいる人の話
段階	話の価値	話の価値	話の価値
5	自分が抱えている困難を取り上げ、具体的に乗り越える方法などを考えている。	自分の活動の中で、さらに努力の必要な場面を想定して、具体的に努力をする目標を持っている。	自分の生活を振り返って、愛情(優しさ)をもって行動したい場面を想定し、行動のめあてをもっている。
4	これからどのような場面で、聞いた話のようにがんばろう(困難を乗り越えよう)と思うかを考えている。	努力のすばらしさを感じ、これからどのような場面で、聞いた話のように努力をしていきたいかを考えている。	愛情をもつことのすばらしさを感じ、どんな場面で自分はそのように行動したいかを考えている。
3	困難に出会った場合に聞いた話のようにがんばろうと考えている。	努力のすばらしさを感じ、自分も努力をしていきたいと考えている。	愛情をもつことのすばらしさを感じ、自分も自然や動物や人に愛情を注ぎたいと考えている。
2	困難を乗り越えたことをすばらしいと感じている。	努力のすばらしさを感じている。	自然や動物や人に愛情を注ぐすばらしさを感じている。
1	話のどこに価値を感じ取れない。	話のどこに価値があるかを感じ取れない。	話のどこに価値があるかを感じ取れない。

(5) 研究構想図



2 実践の概要および結果と考察

考察にあたっては、抽出児童（A男）の課題設定の理由の記述、活動ごとの感想、次回の質問内容の記述、お宝度マップでの分類、学習後の振り返りカード等への記述をもとに行う。アンケート結果などは、学級全員（26人）分を集計したものである。

抽出児A男：活動にはまじめに取り組むことができるが、自分の思いを課題設定に生かすことや、学習したことを自分の生活に結びつけて考えることの苦手な児童である。前単元「お年寄りの生活に役立つパンフレットをつくらう」では学習後に、「一人暮らしの人の生活の様子を調べられてよかった」という感想をもった。（段階の評価2）本単元では、課題設定の理由を明らかにさせることにより、活動意欲をもたせ、生活に生かせる価値を感じ取らせたい。

(1) 自分が本当に聞きたいと思う話を課題として設定することができたか。（見通し1）

ア 実践の概要

聞きたい話の項目を考える際にブレーストーミングを行った。それをもとに各自で話を聞く項目と聞きに行く相手を決めて、たくさん話を集める第1次の聞き取りをした。その後第2次の聞き取りに向けて、集まった話の中から自分のいちばん聞きたい話を選び、教師から問いかけられてその理由を考えることにより、自分の課題を明らかにしていった。

イ 結果と考察

学級全体で項目を考えるブレーストーミングを行った。学習後の感想では「友達の考えが聞けてよかった。」「友達の意見を参考にしているいろいろな考えが思いついた。」「たくさん項目が出てきて選びやすかった。」という声が聞かれた。また、「おもしろかった。」「これから先が楽しみになった。」という感想も見られ、単元の活動全体に対する意欲の高まりが感じられた。

資料1は個人で考えた項目と、ブレーストーミングで出た項目（網かけ部分）を図表化したものである。ブレーストーミングによる児童の思考の広がりがわかる。

資料1 個人で考えた項目とブレーストーミングで考えた項目

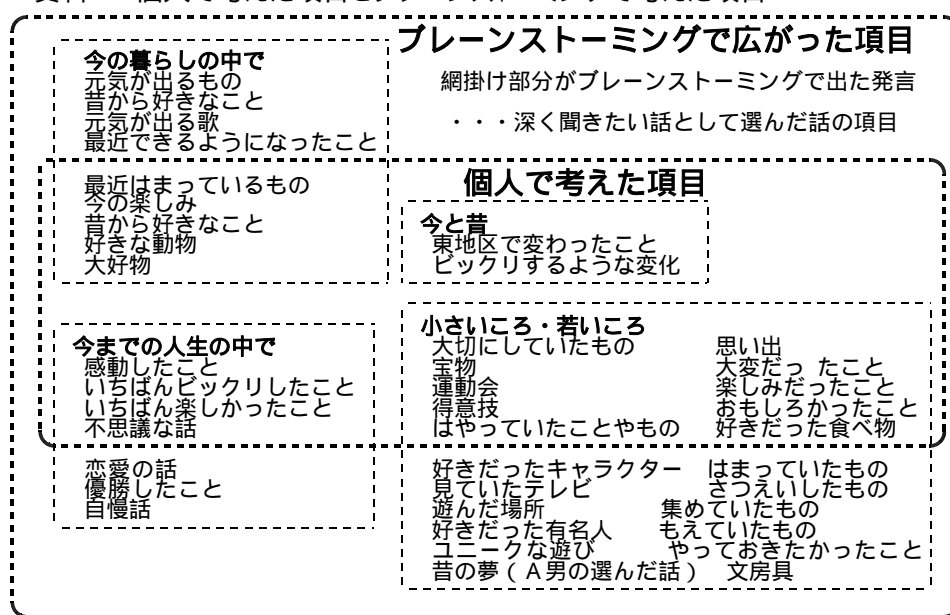


図1は、第1次の聞き取りで使った項目と、第2次の聞き取りで選んだ話の項目の割合についてまとめたものである。どちらもブレーストーミングで出た項目が、半数以上を占めることがわかる。児童が聞きたいと思う話を選ぶ上で、有効な活動であったといえる。

たくさん出てきた聞きたい項目の中から、自分で聞こうと決めた項目をもとに、第1次の聞き

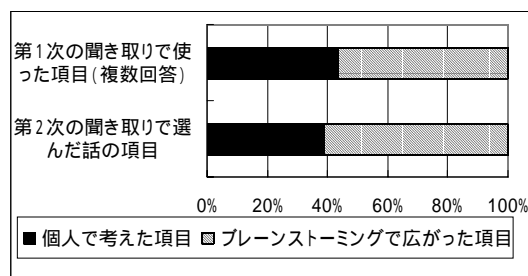


図1 それぞれの聞き取りで使った項目

き取りを行った。そこで聞くことができた話の内容を付箋紙に書かせて模造紙に貼り、全員が一覧できるようにした。その中から第2次の聞き取りで自分が深く聞きたい話を選ばせ、理由を考えさせたところ、「ア このお話を聞くと、こんなところがおもしろい！」の欄には14人、「イ このお話を聞くと、こんなことがためになる！」の欄には15人、「ウ このお話を聞くと、こんな自分になれそう！」には10人の児童が記入することができた。すべての欄に未記入の児童はいなかった。記述に個人差はあるが、自分の思いをもって課題設定ができたと考えられる。

抽出児童A男は、第1次の聞き取りの項目として「東地区で変わったところ」を選んだ。理由は「知りたいから」ということで、時間をかけずに決めることができ、第1回目の聞き取りに臨んだ。しかし第2次の聞き取りで深く聞きたい話を選ぶ場面では、たくさんの付箋紙が貼られた模造紙を前にして、なかなか決めることができなかった。理由を聞くと、「(課題設定の3つの理由を)書く自信がない」ということであった。ここで教師は、A男が単に「知りたいから」という理由ではなく、自分が思いをもって追究活動のできる課題の選択を意識したと考えた。そこで「A男君が気になるのはどの言葉かな？」と聞いたところ、1枚の付箋紙に書かれた「日本一」という言葉に着目した。結果としてA男は、学校の近くで米屋を営むBさんの昔の夢「商売で日本一になること」を課題として選び、課題設定理由を、観点に合わせて表2のように記述した。その後A男は、交通指導員さんでもあるBさんに、自分で話を聞きに行くお願いをするほど意欲的な態度を見せていた。

表2 A男の課題設定理由の記述

観点の項目	記述内容
ア おもしろい	
イ ためになった	かせぐということがどのくらいたいせつかわかる
ウ こんな自分になれそう	自分も日本一になれるかもしれない

このように、思考を広げるためのブレインストーミングを行ったり、理由を明らかにして深く聞きたい話を決めたりすることにより、本当に聞きたいと思う話を課題として設定することができたと考えられる。表3は児童の課題の例である。

表3 児童の課題例

大変だったこと…「戦争」
昔の夢…「婦人警官」「薬剤師」「平和」
昔の思い出…「台湾での運動会」
元気が出ること…「女性フォーラム」

(2) 自分の大切にしたい価値を明らかにすることができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

深く聞きたい話を決めた後、ブレインストーミングなどで最初にできるだけたくさんの質問を考えさせておき、その中から3つ程度の質問に絞り込ませ、第2次の聞き取り1回目にも臨ませた。そこで聞いてきた内容を1つずつ付箋紙に書かせておいた。2回目の聞き取りに臨むにあたり、価値があると思ったことを選ばせて、それに関して深い内容を聞くための質問作りをさせた。聞き取り後は1回目とは違う色の付箋紙に、聞いた内容を書かせておいた。

そして最後となる3回目の聞き取りを前に、前述のお宝度マップに付箋紙を並び替えさせて、自分の大切にしたい価値や発表の方向性を明らかにさせた上で、質問を考えさせた。

イ 結果と考察

質問を考えるブレインストーミングは、聞きたい話がある児童同士数人のグループで、お互いの質問を考えあったが、あまり活発に行われなかった。ほかの児童の課題について考えることが難しかったためと考えられる。ただ、児童が選んだ質問項目を見ると、表4のように、ブレインストーミングで友達が考えた質問を、聞き取りの質問として取り入れている児童もいた。

表4 児童が選んだ質問例

昔の夢「婦人警官」
1 どうして婦人警官になりたかったのですか。()
2 婦人警官のことをどれくらい知っていますか。()
3 どうして自転車屋になったのですか。

注：印はブレインストーミングの中で友達に考えてもらった質問

聞いてきたことを付箋紙に書くにあたって、難しいと考えたり、1枚にいくつもの内容を書いてしまったりする児童のために、それぞれの1回目の聞き取りの内容をまとめたヒントカードを与えた。それを見ることにより、2回目からは自分で書くことができていた。また2回目の聞き取りに向けて、価値のありそうな内容を選ぶときには、必要に応じて面談を行い、一緒に内容を選んだり質問を考えたりした。表5は、児童が1回目の質問で聞き取った内容と、そこから考えた次回の質問の例である。この児童は、3つの質問の答えのうち、1つの内容に絞って次回の質問を考えていた。

表5 質問の答えと2回目の質問例

<p>昔の夢「婦人警官」 1回目の答え</p> <p>質問: どうしてそれになりたかったのですか。 答え 「自動車を誘導している姿や、服装がかっこよかった。えらいと思った。」</p> <p style="text-align: right;">* 答えは要旨</p>
<p>2回目の質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして婦人警官の服がかっこいいと思ったのですか。 ・ 今はどんなことがかっこいいと思いますか。

「お宝度マップ」への分類は、どの児童もたいへん楽しそうに取り組んでいた。付箋紙の貼り替えによって行ったので、この方法が取り組みやすかったためと考えられる。「お宝話発掘隊」という単元の特性上、「これはみんながビックリするぞ」の度合いが高いものをいちばん大切にしたい内容にあげる児童もいたが、その思いを尊重し、生き方につながる内容も落とさず発表に入れるように助言した。

考えを深めるためには、質問の回を追うごとに聞いた内容を充実させていく必要がある。3回の聞き取り終了後に、一番よかったと思う質問は何回目のものかを聞いてみたところ、図2のようになった。2回目の質問が一番よかったと答えた児童が多いが、その児童たちは3回目ですらにその内容を深めるための質問を考えることができていた。1回目の質問がいちばんよかったと考えている児童が4人いるが、その理由は「この質問でその後の質問が考えることができた。」や「この質問の答えで、自分が深く聞きたい内容が決まった。」というもので、その後の活動の深まりを感じさせるものであった。

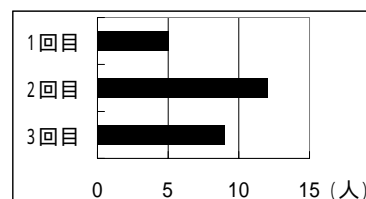


図2 一番よかった質問は何回目のものか

A男の第2次の聞き取りの3回の質問の経緯は表6の通りである。1回目のBさんへの聞き取りでの話には、次の質問につなげるような価値を見いだすことができなかった。そこで「商売で日本一になれなかったBさんにがっかりしたかい?」と聞いたところ、「『夢やぶれて高崎で一番にもなれなかった』と笑顔で話していたことが心に残っている。」と答えた。そして「商売で日本一じゃないけど、交通指導員さんをやっていることからお宝話を聞きたい。」ということで質問を考え、2回目の聞き取りを行った。表3のA男の質問項目の変化を見ると、2回目以降はBさんの人間性に触れられる内容へと変化していることがわかる。

表6 A男の質問項目

1回目の聞き取り	2回目の聞き取り	3回目の聞き取り
(1) なんで商売で日本一になりたかったのですか。	(1) 商売をしているのに交通指導員さんをしているのはなぜですか。	(1) ボランティアをしようと思ったのはなぜですか。
(2) なんの商売で日本一になりたかったのですか。	(2) 交通指導員さんで、たいへんなことはありますか。	(2) 交通指導員さんとしての目標は何ですか。
(3) 今の商売でどのくらいもうかっていますか。	(3) これから日本一になりたいと思うことはありますか。	(3) 交通指導員さんとして気をつけていることはありますか。

注: 矢印は質問のつながりを表す。

2回目の質問終了後の「お宝度マップ」への分類は、A男も説明を聞くとすぐに取り組んでいた。自分が一番大切にしたい内容を決める際に、教師が「A男君がBさんをすごいなと感じるのはどの内容かな？」と聞いたところ、Bさんが交通指導員さんをやっている理由「社会のためになにかボランティアをしようと思った。あと子どもがすきだから。」と書かれた付箋紙を選んだ。そして資料2のように「お宝度マップ」を作りあげていた。この活動を通して自分の考えをまとめ、大切にしたい価値を明らかにしていったことがわかる。

A男は、一番よかったと思う質問を2回目の「商売をしているのに交通指導員さんをしているのはなぜですか。」であると、その理由を資料3のように書いている。自分にとって大切な価値を感じていることがわかる。

このように価値のあることを選んで次の質問を考えたり、聞いてきた内容を価値をベースに分類したりすることにより、自分の大切にしたい価値を明らかにすることができたといえる。

(3) 学習によって得た価値を明確にして、自分の生活に生かそうと考えることにつながったか。(見通し3)

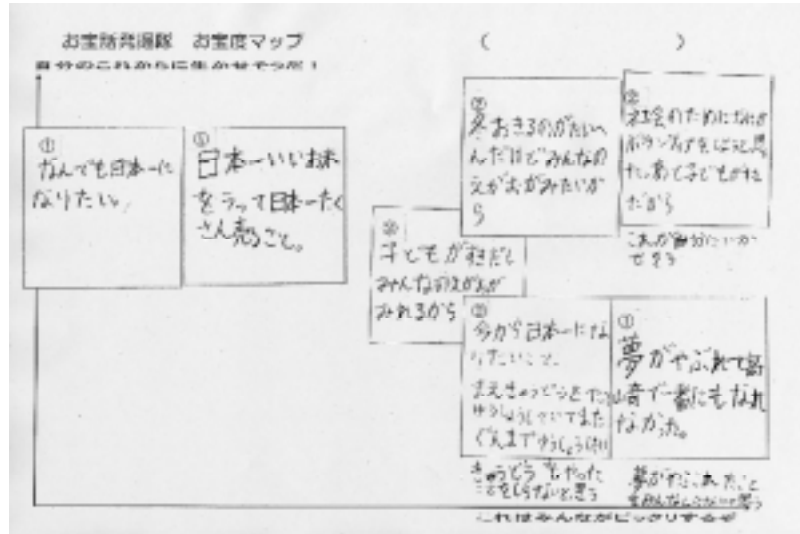
ア 実践の概要

発表準備にあたり、まず発表方法を決めさせた。そして3回の聞き取りを通して聞いた内容を書いた付箋紙を並び替えて、発表の順序を考えさせた。その際、一番大切にしたい内容を効果的に伝えられるように支援した。基本的には、その内容を発表の最後において、そこに結びつけるために何をどのような順番で発表するかを考えるという流れである。発表会后には、まず課題設定の理由とリンクさせた、「ア このお話を聞いてこんなところがおもしろかった!」「イ このお話を聞いて、こんなことがためになった!」「ウ このお話を聞いたので、こんな自分になれそうだ!」という観点で自分の聞いた話を振り返らせ、さらに、「お話を聞く前の自分の姿」と「お話を聞いてからの(話の中の価値を生かしている)自分を想像した姿」との2つを書いてみることで、自分の生活に生かそうと考えることにつながっていった。

イ 結果と考察

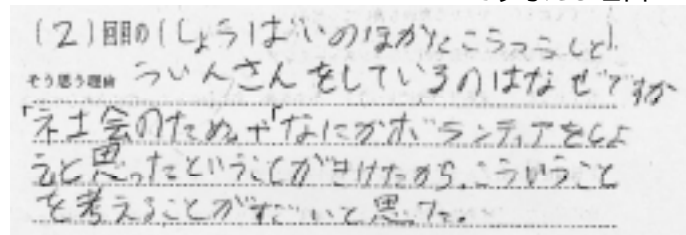
児童は発表方法として、模造紙に書く、紙芝居をつくる、フラッシュカードをつくる、パソコンの紙芝居ソフトを使う、人形劇を行う、クイズ形式で発表する、といった方法を選んだ。発表の順序を考える活動は、付箋紙を並び替える作業のため、取り組みやすかったようである。そこに補助線を入れたり、小タイトルをつけたりして、自分の考えをまとめている児童もいた。戦争のお話を聞いたグループは、話し手を主人公とした人形劇で発表を行い、聞いた内容を様

資料2 A男のお宝度マップ



注: は何回目の聞き取りかを表す

資料3 A男がいちばんよかったと考える質問と
そう考える理由



子が伝わるように工夫していた。また、昔の遊びについての話を聞いた児童は、修学旅行先で見つけたベーゴマの回し方を教わり、発表の中で実演したりした。発表の最後に「お話を聞いた感想」を述べさせたところ、表7のような感想が聞かれた。児童が感じた価値を自分の生活に生かそうとする気持ちがうかがえる。

発表会後に自分の聞いた話を振り返る活動では、アの欄には19人、イの欄には26人、ウの欄には23人が記述することができた。これを課題設定時の記入数と比較したのが図3である。聞き進めることにより、自分の聞いた話の中に価値を感じていることがわかる。ただ、アの欄は大きな数字の伸びがなかった。また「アの欄が書けなくなった」と言ってきた児童もいた。その児童はイ、ウの欄は記述できていたことから、最初はおもしろさに引きつけられて聞きにいった話だったが、徐々に話の本質の部分に関心が移っていったためと考えられる。

さらに、ア～ウへの記述から一つを選んで、「お話を聞く前の自分」と「お話を聞いてからの自分を想像した姿」とを書く活動では、すべての児童が書くことができた。その内容を表1の「話の中に見いだした価値を、自分の生活に生かそうとする段階」に照らし合わせて評価し、さらに前単元での評価と比較すると、図4のようになる。多くの児童が、学習によって得た価値を、生活に生かそうと考えることができていた。

A男はパソコンの紙芝居ソフトを使っでの発表を選んだ。前単元では友達の助言を受けてその通りに書いていたが、今回一人で取り組んだことで、自分のこだわりをもって発表方法を選べたと考えられる。発表の中で、A男は資料4のような感想を述べた。また、発表会後の振り返りカードには前述のア～ウ欄に表8のように記述した。

それらから、興味をもって話が聞けたことや、自分の生活に結びつけられそうな価値を感じていることが伺えるが、どこまで具体的に考えられているかという疑問が残った。次の「お話を聞く前の自分」と「お話を聞いてからの自分を想像した姿」とを書く活動では、生かしたい価値として、イの欄の「ボランティアをしたい」と思っていた交

表7 お話を聞いた感想(例)

昔の夢「婦人警官」
 ・すごいと思った考え方はCさんが「一生けん命働くことがかっこいい」と思っていることです。これから働く人にかっこいいと思って見たいです。
 大変だったこと「戦争」
 ・食べ物をむだにしないように気をつけたいと思います。
 元気のもと「女性フォーラム(絵手紙)」
 ・聞いたことを絵をかくとき思い出したらいつもより楽しくかけると思います。
 昔の遊び「ベーゴマ」
 ・昔はおこづかいが少なかったけれど、今はむだづかいばかりしているので、気をつけたいと思います。

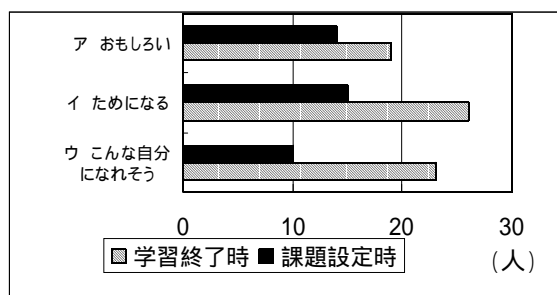


図3 話の価値の意識の変化

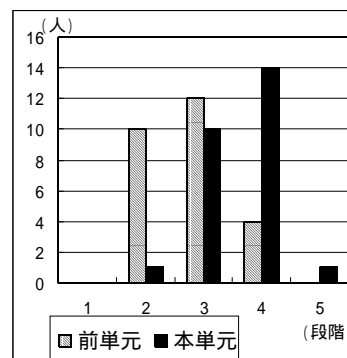


図4 自分の生活に生かそうとする段階の評価の変化

資料4 発表の中のA男の感想

「ぼくは、Bさんの社会のためになにかボランティアをしようと思ったということがすごいと思いました。今回聞いたお話の中で、そのことが、これからの自分の生活に生かせそうだなと思いました。」

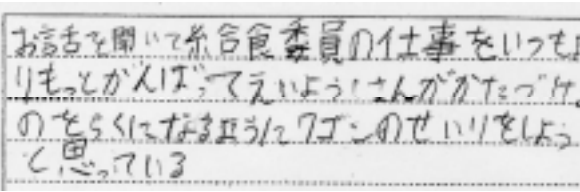
表8 A男の振り返りカードへの記述

観点の項目	記述内容
ア おもしろかった	Bさんのひみつがきけておもしろかった。
イ ためになった	ボランティアをしたいと思ってなった交通指導員さん。ぼくもボランティアとかをやってみようと思う。
ウ こんな自分になれそう	

通指導員さん。ぼくもボランティアとかをやってみようと思う。」を選んだ。「自分に無理なくできそうなことを想像して書いてごらん。」と全体に助言したところ、A男をはじめ児童は資料5のように記述した。このA男の記述を教師は自分の生活に生かそうとする段階の4と評価した。さらに学習後の感想として、「これまで総合はいやだと思ったこともあったけど、この勉強は楽しくいっしょうけんめいできた」と書いていた。A男にとって、意欲が喚起され、充実した活動になったことが伺える。

このように、これまでの自分を振り返ったり、自分の大切にしたい価値を生かしている自分を想像したりすることにより、自分の生活に生かそうと考えることにつながったといえる。

資料5 「お話を聞いてからの自分」への記述(最上段がA男)


<ul style="list-style-type: none"> ・自分から遊ぼうと言えるようになり、つねに笑顔でいたいと思っている。(昔の遊び「とっこ」)
<ul style="list-style-type: none"> ・おとしよりの人が若い人とはたらいていることはすごいと聞いて、そういわれればたしかにすごいと思った。今度からそういう気持ちではたらいている人を見たいと思う。(昔の夢「婦人警官」)
<ul style="list-style-type: none"> ・私は「病気をなおすためにあきらめないでがんばっていたんだよ」と聞き、私もあきらめずにがんばれる自分になれるといいなと思いました。なにかを始めるときに「がんばろう」という気持ちで1つのことにとりくんでいきたいと思います。(元気になること「女性フォーラム」)

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

お話を聞くという活動は、徐々にではあるが、児童が学習内容から積極的に価値を見いだそうとすることにつながることができた。また、学習の過程において、児童に深く聞きたい話を選んだ理由を考える視点を与えたことは、自分の課題について深く考えることにつながり、課題に対して思いを深めることができたと考える。

聞き取った内容を付箋紙に書かせたことは、並び替えを容易にし、内容を分類して自分の大切にしたい価値を明らかにする上で役立たせることができた。さらに、振り返りの場面で、「お話を聞く前の自分」と「お話を聞いてからの自分」とを書くことで、より生活に近い部分で具体的に考えることができ、学習したことを自分の生活に生かすことを意識させることができた。

2 今後の課題

聞き取った内容から感じる価値は、教師と児童とでは差がある。今回も教師が感じ取ってほしいと思った価値の中に、発達段階などの理由から、児童が関心を示さなかったりしたものもあった。児童の考えにまかせるべきか、あるいは教師の支援で気付かせていくべきか、迷いがあったので、スタンスを明確にして指導にあたる必要があったと感じた。

児童は思いをもって取り組み、たくさんの価値ある内容を聞いてきたが、まとめ方や発表への指導不足を感じた。隠れている価値が十分聞き手にも伝わるような発表方法の指導の工夫は、今後どんな単元を扱うにおいても必要である。また個人で得た価値をどのように、他の児童に広げていくかということも、改善の余地がある部分だと考える。

参考文献

- ・加藤 幸次・安藤 輝次 著 『総合学習のためのポートフォリオ評価』 黎明書房(1999)